

## 開催報告

### 江東5区水害に関する学習会



## 「東京都と江東5区の大規模水害対策」

近年、全国で大規模な水害が起きています。大きな河川が多く流れている江東5区で、大規模な水害が発生し、大きな被害が発生した場合、区民の生活にどのような影響がでるのか。その際に行政はどのような対応を行うのか。東京都と江東区からお話を伺い、江東5区大規模水害対策協議会における検討内容を学習しました。後半のグループワークでは講師への質問や感想を出し合い、また地域で活動している社協やNPOとともにどのような対策や対応ができるのかを意見交換しました。

日時：2019年6月26日（水）午後2時～4時45分

場所：パルシステム東京新宿本部2階第2会議室

主催：東京都生協連大規模災害対策連絡会

講師：江東区総務部危機管理室 防災課長 大塚尚史氏

東京都総務局総合防災部 計画調整担当課長 濱中哲彦氏

参加：30名

コープみらい、コープデリ連合会、パルシステム東京、東都生協、生活クラブ連合会、コープながの、こくみん共済COOP、東京ボランティア・市民活動センター、葛飾ボランティア・地域貢献活動センター、東京都社会福祉協議会福祉部、墨田区社会福祉協議会、東京YMCA、震災がつなぐ全国ネットワーク、ADRA japan

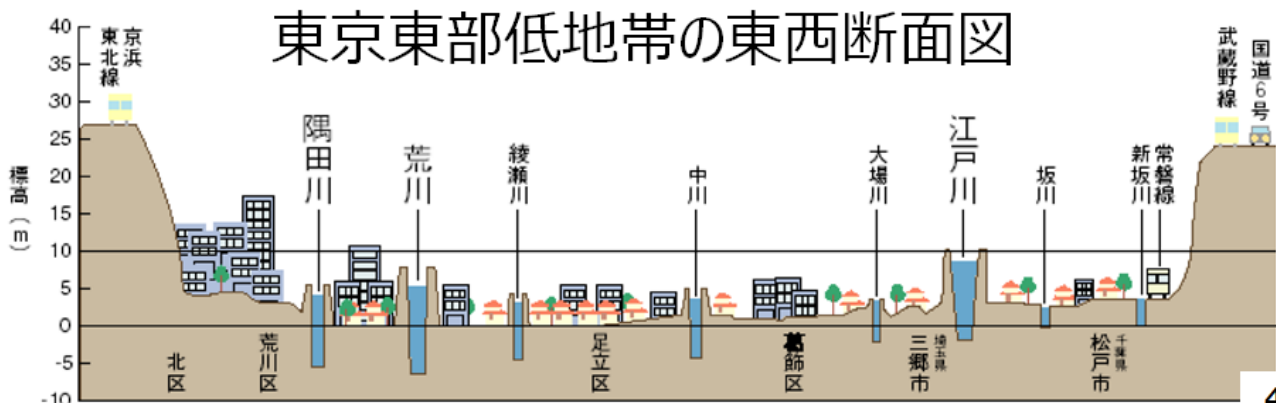
### 江東区総務部危機管理室

#### 防災課長 大塚尚史氏

#### 「江東5区の大規模水害対策」

東京都の東部に広がる低地帯、とくに江戸川・江東・墨田・葛飾・足立の

「江東5区」は河川も多く、洪水や高潮の浸水リスクが高いため、共同で検討し広域避難に向けて、3日前からの備えをリーフレットとしてまとめています。しかし、大規模水害が発生すれば江東5区のみで250万人が広域避難の対象者となります。堤防などの対策は昭和40年代に完成し、その後大きな水害は発生していませんが、一度浸水すれば2週間は水が残り生活は困難になります。安全が確保できる災害発生前に、浸水域外に避難することが重要です。



この断面図からも浸水被害による影響の大きさが伺える

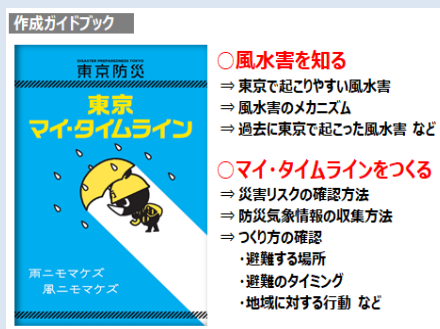
東京都総務局総合防災部  
計画調整担当課長 濱中哲彦氏  
「東京都における水害対策について」

東京都内の豪雨はこの30年間で約3倍に増加するなど、東京でいつ大規模水害が発生してもおかしくありません。

昨年6月に「首都圏における大規模水害広域避難検討会」が設置され、広域避難場所の検討が進め

られていること、東京都が普及啓発のために作った「東京マイ・タイムライン」が紹介されました。子どもから大人まで、デジタル版では多言語にも対応し、誰でも容易に作れるよう工夫されています。風水害を3種類（長引く大雨、台風接近、短時間の急激な豪雨）に分け、それぞれどのように行動するかをスマートフォンやパソコンから入力して作成することもできます。

水害のおそれがある地域では、早期に避難することが、自らの命を守ることにつながります。



【質疑応答より】

Q:広域避難先との連携はどうなっているのか

A:避難先は、自身で決めておく方が良い。行政側としても情報を収集し、発信していきたい。

Q:要配慮者の対応は

A: 垂直避難も止む無しと考えるが、優先的に救出しても時間がかかってしまう。移動自体もリスクになるので早目の情報収集で営業停止や提携先への移送の対応が望ましい。

Q:堤防の寿命、メンテナンスは

A:川底の強化を含め補修工事を行っている

【講師のお二人から・・・】

■避難勧告が仮に空振りであっても「何も起こらなくてよかったね」と思ってもらいたい。

■行政ができることには限界があり、250万人の対応はできない。「自分の命は自分で守る」という意識を高めていくことが大事。そのために、自助だけでなく共助も強めてほしい。

【アンケートより】

・水害が地震とどのように違うのか、またどのような対策がされているのかがよくわかった。

・都や区の考え方は理解できました、がしかし、具体的な避難方法、場所等が不明確であることもわかった。

・行政を超えての連携は素晴らしい。一般市民に具体案を早く提示して欲しい。

・全国レベルでの広域避難のための姉妹都市提携や全国の温泉旅館との提携なども加えられないだろうか。

【対策・対応についての意見交換より】

・生協だけでなく、平時から、地域で活動する社協やNPO 団体、また行政とのつながりづくりが大切。

・家族・親族間の事前協議

・被害想定地域での生協組合員向け学習会や地域に関わる団体も参加できる学習会の開催

・BCPの見直し

・水害のイメージを深くする

・公共施設の運営スタッフが共有すべき情報や行動等に関する勉強会の開催

・タイムラインに基づく休校、企業の臨時休業などの徹底も必要ではないか



講師の説明が大変わかりやすく、どのようなことが起こり、命を守るために何をすべきかがよくわかりました。また、命を守る行動のあとの具体的な行動については、まだまだたくさんの道のりがあることもわかりました。それぞれの立場の人たちが水害のことを考えるきっかけになったとの感想がたくさんあったことから、参加された方々が職場や地域での学習会での気づきを広く伝えていただきたいと思います。

(東京都生協連大規模災害対策連絡会)